あたたかい手

山口県　大泉寺　住職　横山宗賢

今から二十年以上前、私が山寺の修行道場にいたときのことです。その日は、新年を迎え初めての托鉢に出かける日でした。昨夜からの雪で辺りは真っ白、まだ深々と雪が降り続いていました。

ある一軒家の玄関先で、お経をあげておりますと、納屋の奥から高齢の女性が、両手いっぱいに何かをもって近づいて来ました。よく見ると、それはお餅でした。

私は頭陀袋の中から、食べ物を入れるためのビニール袋を取り出し、袋に入れてもらおうとしましたが、指先がかじかんで感覚がなくなり、袋を開けることができません。私は気持ちが焦り、息を吹きかけて指先の感覚を取り戻そうとしました。その間、女性は笑顔で、頭陀袋を開けるのを待っていてくださいました。

やっと袋が開き中にお餅を入れ、私が合掌しお唱え事をしようとしたその時です。女性は私の両手を包み込み、しばらく温めてくださいました。女性の手は、人生の年輪を感じさせるような肉厚で力強い、仏様のような温かい手でした。

女性は終始無言でしたが、私を励ましてくださっているように感じました。そのときのあたたかな手の温もりは、二十年以上経った今でも時折思い出され、私が僧侶として生きていく支えとなっています。

（平成二十八年一月放送）